

祝祭日には国旗を掲揚しましょう

敬神尊皇 黎



明報感謝

監修/日刊ひぐらし 〒151-0071東京都渋谷区本町1-30-18-107 http://www.higurashi.net/ 第0058号
護國青年會議機関紙 http://www.gokoku.net/ 発行人/山本修三 編集人/戸出蒼流 平成21年2月15日

オバマ政権が暗示する日本の憂鬱と命運

日本時間の先月二十一日未明、米国初の黒人大統領が誕生した。バラク・フセイン・オバマ大統領の就任式の模様を日本のメディアは、呆れる程のお祭り騒ぎで報道した。「CHANGE」と「YES WE CAN」に魅せられての報道は、「自民党をぶっ壊す」と言って登場した小泉純一郎元首相就任時と聊かオーバードラップする面がある。結果的に小泉は自民党をぶっ壊すどころか自民党の延命に手を貸し、政界から去って行くこととしている。果たしてオバマはアメリカを「CHANGE」し、山積する難問に直面した際に「YES WE CAN」と言えるのだろうか…。



就任演説するオバマ新大統領

就任演説の全文を読んで疑問に思ったことは変革を説きながら、その変革に限界がある事を論じていない点である。

オバマはブッシュ政権の政策からの転換を言いつつ、ブッシュの政策的の拠り所であった米国の独善的で傲慢ともいえる強圧的な思想については一言も否定していない。結局のところは、歴史に根拠づけながら、米国の判断と行動を全面肯定しているだけであり、何も否定しないのなら、ブッシュ政権のままと同じだということになる。

オバマは演説の中でソ連との冷戦に勝利したことを称揚している。確かに自由主義社会の一翼を担う我が国としては、それはそれで喜ばしい限りだ。オバマは共産主義という敵を倒した事をアメリカの正義の歴史のように言うが、先の大戦において、普通に暮らしている広島長崎の数千万の市民の上に原爆を落として数千度の熱で焼き殺した事も正義の歴史と言うのか、ベトナムに枯葉剤を撒布して大量の奇形児を発生させたことも正義の歴史と言うのか、こんなものは正義でも何でもない悪魔の歴史そのものである。しかし、アメリカ人はオバマの演説に酔いしれ、二百万人という途方もない数の人種の壁を越えた老若男女がオバマバッジを胸に付け「新しい時代が始まった」と欣喜雀躍するさまは、世界のほとんどがアメリカへと集中した一国

集中時代への懐旧の念と、憧憬に酔っているように見えた。ナショナルモールやペンシルバニア通りを埋め尽くした米国人は、オバマが直面する火急の問題である経済金融危機や環境汚染からは、敢えて目を背け、遙かなるノスタルジーに酩酊しているようで滑稽にさえ思えた。



就任式に集まった群衆

アメリカの環境問題の取組みの遅れは自他共に認めることであり、新大統領は日本や欧州各国に追い付き追い越そうとする姿勢を示しているが、それはそれで結構なことである。しかしアメリカが自然界と人間に対する根本的な考え方を「CHANGE」しない限り容易ならざることである。自然や他国民を自己の欲望を満たすために力をもって服従させてきた弱肉強食の歴史が

ら共存共栄の歴史へと変革することができるか否か、その一点に掛かっていると云って過言ではない。

環境問題において日本が米国よりも前向きで先進的なのは、経済政策や産業政策のレベルではなく、人間観とか世界観というような哲学的な領域において米国の凌駕しているからに他ならない。

米国が環境問題でイニシアティブを取ろうとするのなら絶対的な自己肯定的な立場から離れて、自分たちの歴史を率直に反省する必要がある。そこまで踏み出さないうかがりアメリカが環境先進国となることなどあり得ないし、米国の再生は夢物語に終わってしまうことだろう。

米国史上初のアフリカ系大統領の誕生で米国は新しい一歩を踏み出すこととなるだろう。そしてそれは、日本や世界に様々な影響を与え、世界の枠組みを変えるかもしれない。さらにその枠組みが日本にとって必ずしも有利になるとはかぎらないことを我々は認識しなければならぬ。日本にとって憂鬱のタネは共和党政権から民主党政権に変わったこともそうだが、日本嫌いで有名なビル・クリントン元大統領夫人のヒラリー・クリントンが国務長官に就任したことである。



悪魔の使いヒラリー

そのヒラリーが今月十六日
に来日する。米国の慣例では、
これまで国務長官の最初の外
遊先は欧州か中東となってい
たが、日本や韓国との関係強
化とあわせて、中国との広範
で親密なパートナーシップの
強化、北朝鮮の核問題への取
り組みを示すために日中韓の
三ヶ国を歴訪する。そしてそ
の最初の訪問国が日本になっ
たことについて、政府首脳は
「オバマ政権の日本重視のあ
らわれだ」と安堵し、大方の
メディアは「日米同盟重視の
姿勢を強調し、北朝鮮の核問
題での連携を強化することが
狙いのようだ」との見方をし
ている。どうやら日本政府や
スコミは、衣の下の鎧が見え
ていないようだ。

二〇〇七年十一月、ヒラリ
ーは米中関係を「今世紀で最
重要な二国間関係である」と
述べ、日本軽視の意向を示し
ている。さらに今月十日に発
行された米国の外交専門誌「
フォーリン・ポリシー」には
ヒラリーの発言として、「最初
の訪問先は日本、しかし最も

重要なのは中国」といった内
容の記事が掲載されている。
では何故アメリカにとつて中
国がそれほど重要なのか。そ
れは、軍事大国となった中国
に対して、オバマが「中国を
国際社会に関与させれば、そ
の脅威を抑止することができ
る」という幻想を抱いている
からに他ならない。

オバマの甘い幻想とは裏腹
に中国は二〇〇八年度も前年
比十八%増というハイペース
で軍備を強化し続けている。
それでも米国が対中妥協の姿
勢を示すのであれば、日本の
政府首脳のように呑気なこと
を言つて安堵してはられない
事は自明の理である。

中国の異常な軍備強化は、
日本と台湾にとつて計り知れ
ない脅威となる。日本は米国
の甘い幻想を打ち砕き、相当
な覚悟をもって米国の対中妥
協を止めさせなければ、遅か
れ早かれ中国の影響下に陥つ
てしまうということを知るべ
きである。然しながら今の日
本の政治家や官僚に、そうし
た認識や覚悟があるのだろうか
か甚だ疑問である。日本がこ
れまで泰平の美酒に酔い「国
を護る」ことを米国頼みにし
てきた平和ボケのツケが、い
よいよ日本に回つて来るとい
うことをオバマ政権が如実に
物語っている。

二月十三日 戸出蒼流

竹島は日本固有の領土 2月22日は「竹島の日」



竹島が歴史的事実にも、国際法上から考査
しても日本固有の領土であることは揺るぎのない事実
である。日本が連合国軍の占領下にあつた期間は、い
わゆる「マツカーサーライン」によって日本の漁場は
制限されていたのだが、一九五二年一月十八日、韓国
政府はマツカーサーラインの撤廃に備えて、遙か日本
寄りに悪名高い「李承晩ライン」を設定し、水産物だ
けでなく、天然資源も鉾物も韓国が独占すると宣言し
たのである。翌年から李承晩ライン内に入った日本の
漁船は片っ端から拿捕され、砲撃され、撃沈されるよ
うになり、日本の漁民たちを恐怖に陥れたのである。
微力な日本政府は、国際法を無視した韓国の傍若無
人な行為になす術もなかった。一九五四年、竹島の所
属をめぐる交渉が始まると、韓国は、日本の武装が脆
弱で反撃できないことを見越し、無電台を設置し軍隊
を常駐させ、現在までの五十七年間、竹島を不法占拠
し続けている。
平然と国際法を破り、歴史を捏造する韓国人の下劣
で破廉恥な体質は、今に始まったことではなく謂わば
韓国の伝統文化である。国家としての品位がまったく
感じられない韓国との友好を叫ぶ輩がいるが、韓国が
このような体質を改めないかぎり友好などありえない
ことだ。
李承晩ラインが設定されてから五十七年間、韓国は
民度の低い国民に「独島（竹島の韓国名）は韓国のも
のだ」と繰り返し歴史を捏造した歴史教育を行つてき
た。一方日本では竹島問題を教科書で取り上げる事も
できず、マスコミは竹島に触れる時必ず「日本と韓国
が領有権を主張する」との枕詞を使う。これでは正し
い教育や情報を受けられない子供たちが、竹島は本当
に日本の領土なのか」という錯覚に陥つてしまうこと
となる。このままの状態が続けば、韓国による不法占
拠が正常であるかのように、世界の国々が誤解してし
まう恐れが生じる。同時に日本国の権威は失墜し、日
本人の愛国心の欠如が問われる事となる。竹島の現状
を打破する為は何よりも大事なことは、「自分の国は自
分で護る」気概を国民の一人一人が持ち、二月二十二
日は「竹島の日」であることを肝に銘じておきたい。